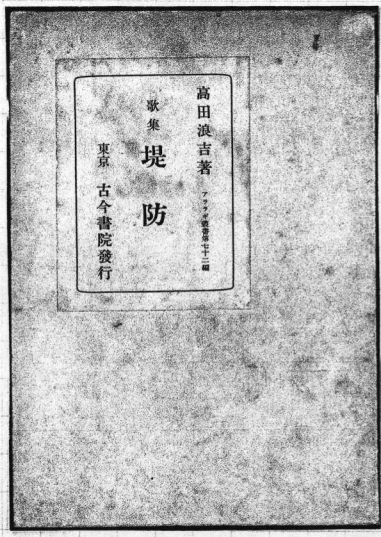


高田浪吉 浪吉 歌人。明治二十一年五月二十七日東京生れ、昭和二十七年九月十九日歿（一八六一一九六一）。號浪一、草葉、薄氷。少時松倉米吉（米知り）、早川幾忠、相坂一郎等と共に行路詩社を結ぶ。大正五年島本赤彦の勸導、十二年の關東大震災後歌誌『マツラギ』の編輯を助勢、十五年選歌擔當。昭和二十一年『檜』、二十四年『川波』を創刊主宰。

- 編著書 『松倉米吉歌集』（共編・行路詩社同人、大正九年六月十五日行路詩社）『マツラギ叢書』、歌集『川波』（昭和四年二月二十八日古今書院）『マツラギ叢書』、歌論集『作歌餘録』（昭和五年八月五日古今書院）『マツラギ叢書』、歌集『沙濱』（昭和七年四月十日岩波書店）『マツラギ叢書』、『隨筆集鑑賞・卷第 一』（昭和九年二月十六日古今書院）、『作歌手記』（昭和十年四月二十七日古今書院）、『中世近世名歌私抄』（昭和十一年十一月十五日古今書院）、歌集『堤防』（昭和十一年二月五日古今書院）『マツラギ叢書』、『短歌の鑑賞法』（昭和十一年九月十日古今書院）、『歌人中村憲吉とその短歌作品』（昭和十二年十一月二十日三省堂）、『短歌を作る人』（昭和十五年八月十日桜谷書院）、『現代作歌論』（昭和十五年八月五日第一書房）、『島本赤彦の研究』（昭和十六年八月九日岩波書店）、『作歌の問題』（昭和十六年十一月二十五日三省堂）、『短歌の道』（昭和十七年十一月二十日櫻木書房）、隨筆集『紅葉記』（昭和十八年一月二十日大



阪・錦城出版社)、歌集『高草』(昭和二十一年十月一日檜蔭行所出
 版部「檜叢書」)、『寫米赤考論』(昭和二十二年一月二十日興風
 館)、『松倉米吉全集』(編、昭和二十二年五月十五日善社)、歌集『川
 波』(昭和二十四年七月十一日歌集
 「川波」頒布会)、『明治・大正・昭
 和短歌史』(昭和二十七年五月)『五
 日富士書店』、『松倉米吉全集』(編、
 昭和三十年十一月)『日第(書房)』等。

